

平成30年度 学校自己評価システムシート（東京農業大学第三高等学校・附属中学校）

目指す学校像	① 丁寧な進路指導にて、進学実績を伸ばす。 ② 部活動の強化により、学校に活力を与える。 ③ 生活指導を徹底し、生徒の質を高める。 ④ 私学としての特性を生かし、掲げた学校改革を進める。 ⑤ 志願者を増加させ、定員の確保を目指す。 ⑥ 財政の健全化を目指す中で、生徒への教育サービスを向上させる。
--------	---

重点目標	1 コースと教科の双方の連携を密にし、指導態勢の充実と向上に努める。 2 私学としての特性を生かし、学校改革に努める。 3 実験・体験・観察を重視する中で、創造的・能動的な学習スタイルを育成し、知識や技能を活用できる生きた学力を育成する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価（3月末現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	全生徒の学力と進学実績の向上のために、全教員の教科指導力・進路指導力・生徒指導力を向上させることを目指す。 生徒による授業評価、教職員の内外の研修会への積極的な参加、研究授業や授業参観およびFDの外部評価の実施と研鑽、さらに大学入試問題研究等を実施しているが、工夫と努力が必要である。	① 教科指導力の向上 ② ホームルーム運営生活指導力の向上 ③ 進路指導力の向上	① 生徒による授業評価 ・内外の研修会への積極的参加と教職員間での情報の共有 ・授業見学・参観の計画的実施 ・大学入試問題研究の積極的実施と教科指導への活用 ・教職員へのFDの実施 ② 基本的生活習慣の確立 ・学習習慣の確立 ・ネットリテラシー教育 ③ 進路意識の向上 ・入試に関する研修の積極的参加と学年・教科による情報交換	① 授業改善への取り組み ・研修会への参加と報告内容 ・授業見学・参観数 ・FD評価者による評価と各自の研鑽 ② 基本的生活習慣全般の評価 ③ 進学実績の年度別累計比較と指導内容別の振り返り	① 模擬試験の結果等から判断すると、授業改善が十分になされていない。 ② 生徒への指導を工夫し、共通認識をもって組織的に取り組む努力をしている。 ③ 国公立・難関私大への合格者数が不十分で、更なる努力が必要である。	① C ② B ③ D	① 各コース・教科において、生徒による授業アンケート結果を分析・検証し、専門業者による講演会を開催する。授業改善に教科単位で取り組み、模試等の結果向上につなげていく。具体的には、各教科において、専門業者のアドバイスを受けながら、3年間を見据えた授業展開の計画を立て実行する。 ② 生活リズムの改善と校内自学習と家庭学習の定着の徹底を図る。 ③ 大学入試に関する研究、入試状況の情報入手とその理解を推進する。また、生徒が自分から進んで学習する姿勢を身に付けさせる方策を展開する。
2	I・II・III・中高一貫の各コースの教育プログラムに関する現状認識と改善点を列挙し、さらなる教育目標の到達や教育内容の充実を再検討し、それらを実行するための課題を総合的に把握して、それぞれの課題を解決しようとしている。取り組み状況を内外に発信し受験者数の増加につなげる。	① 受験者数の増加とコースごとの適正な入学人数の確保 ② 教育課程の再検討 ③ 進学実績の更なる向上 ④ 生徒会活動・クラブ活動の活性化	① 学校の方針・教育内容・特色の理解の徹底と積極的な募集活動 ② 生徒の実力を更に伸ばす教育課程を検討・編成する ③ 生徒の進路実現を図り、進学実績を更に向上させる ④ 部活動・生徒会活動の自主的活動を支援する	① 受験者数と入学者数 ② 新教育課程に基づく教育内容実現の検証・評価 ③ 進路目標の設定とその実現方法の検証・評価 ④ 部活動・生徒会活動支援についての検証・評価	① 受験者数の増加と適正な入学人数が確保でき成果は上がった。 ② 教育方針・教育内容・新教育課程の検討等を行い、その取り組みについて検証している。 ③ 授業力と進路指導力の向上に努力をしている。 ④ 学校行事への自主的な活動を発展させている。野球部の県準優勝という成果を上げた。	① A ② B ③ C ④ A	① グローバル教育・実学で真の力を育てる・学内完結型学習指導体制の3つの柱を具体的諸策で実践し、将来を担う人材育成に努めることを前面に出して広報活動を行い、受験者数をさらに増加させる。 ② 生徒の学習意欲の向上の為に取り組みと、自主学習の定着、進路意識の向上と進路選択力の育成を図る。 ③ 進路意識向上の為に、生徒への働きかけやアプローチの充実、人的資源を活用したキャリア教育のさらなる充実を図る。 ④ 全校生徒の主体性や協調性を涵養するとともに、自己有用感と愛校心を育成する取組を行う。
3	附属中学校の特色として、机上の学習だけでなく様々な体験・実験・観察を通して学びの本質を追究する「実学教育」をベースに教育活動を実施することを重視し実践している。	実験・体験・観察を重視した科学的・学問的探究の精神・態度の育成	① 「総合的な学習の時間」の一環としての屋上菜園での大豆栽培と醸造体験（味噌作り）、稲作、畜産体験等を実施 ② 博物館研修における調べ学習とプレゼンテーションの実施 ③ 理科・社会の授業での実験・社会参加等の実践	① ～ ③とも 実施状況・内容の検討、生徒の知的な好奇心が育ち、能動的・主体的学習姿勢が確立されたかについて検証・評価	① ～ ③とも 本校の教育活動のベースとして着実に実施し、知的な好奇心と探究心を涵養することができた。	① A ② A ③ A	生徒の知的な好奇心を刺激するだけでなく、探究心を涵養し、能動的・主体的な学習姿勢の確立に結びつけていくには、基礎的な知識の確実な定着が前提となる。そのためには、「実学教育」と「知識の定着を図る学習」をいかに融合させていくかの工夫と指導力が必要である。令和元年度では校外学習の取り組みをさらに強化し、各教科で主体的な学びの場を数多く提供する。